

# Anthropic の金融業務向け AI エージェント分析レポート

## Executive Summary

- 2026年5月5日、Anthropic は金融機関向けに **10種類**の「**ready-to-run agent templates**」を公開した。対象は、提案資料作成、決算レビュー、バリデーション検証、KYC 審査、月次締めなど、フロント・ミドル・バックオフィスの反復的で高負荷な業務である。提供形態は、**Claude Cowork/Claude Code 向けプラグイン**と、**Claude Managed Agents 向け cookbook** の二本立てで、公式には「数日で導入できる」ことが訴求されている。個別エージェントの独立価格は**未公開**で、利用条件としては「all paid plans」および Claude Platform public beta が示されている。[\[1\]](#)
- この発表は単なるテンプレート配布ではなく、**金融データ接続**と **Microsoft 365 内ワークフロー**を組み合わせた業務基盤の提示でもある。Anthropic は、Excel・PowerPoint・Word のアドインを一般提供し、Outlook は近日提供としたうえで、FactSet、S&P Capital IQ、MSCI、PitchBook、Morningstar、LSEG、Daloopa など既存データ基盤との接続性を前面に出している。[\[2\]](#)
- 技術面では、公開情報から確認できるのは「**Opus 4.7 との組み合わせが最適**」「Managed Agents は **Anthropic 管理インフラ上の長時間・状態保持型セッション**」「Messages API には **Zero Data Retention** がある一方で Managed Agents は**自動削除なし**」という構図である。つまり、金融機関にとって重要なのは、**モデル性能そのもの以上に、どの実行面を選ぶかでデータ保持・監査・運用責任が変わる点**である。[\[3\]](#)
- 規制・コンプライアンス上は、米国では Federal Reserve[\[4\]](#)・Office of the Comptroller of the Currency[\[5\]](#)・FDIC のモデルリスク管理および第三者リスク管理、EU では **AI Act**・**GDPR**・**DORA**、日本では Financial Services Agency[\[6\]](#)の **AI Discussion Paper** が実務上の基準線になる。特に、信用審

査・KYC・顧客に影響する判断では、**human-in-the-loop**、記録保存、説明可能性、インシデント対応、ベンダー監督が中核論点になる。[7]

- リスク評価としては、Anthropic 自身が金融ベンチマークでの優位性を主張する一方、学術ベンチマークでは**現行エージェント性能はなお専門家水準に達していない**。したがって、導入の現実解は「完全自律化」ではなく、**起案・照合・集約・例外抽出を AI に寄せ、判断・承認・対外送付は人が担う設計**である。最初の適用対象は、対顧客の最終意思決定よりも、社内ドラフト生成、決算照合、資料更新、レビュー支援のほうが妥当である。[8]

## 発表の概要

Anthropic の 2026 年 5 月 5 日の発表は、金融サービス向けに **10 種の事前構築済みエージェント・テンプレート**を公開し、それを **Claude Cowork**、**Claude Code**、および **Claude Managed Agents** で使えるようにした点にある。公式ニュースページでは、これらを「最も時間のかかる金融業務」に対するテンプレートと位置づけ、公式ブログでは、調査、ディール業務、引受、クレーム、モデルレビュー、月次締めまで含む実運用ガイドとして整理している。Yahoo!ファイナンス掲載のフィスコ記事も、銀行その他金融サービス企業向けの最新 AI エージェント投入として同日の動きを報じている。[9]

発表日に関しては、Anthropic 公式ブログ「Deploying Claude across financial services」が **May 5, 2026**、公式ニュース「Agents for financial services」も同日付であり、内容は相互補完的である。前者は導入ガイドと製品マトリクス、後者は **10 エージェントの列挙**、Microsoft 365 統合、新規コネクタ、MCP アプリなどの発表記事という役割分担になっている。[10]

対象製品は、厳密には「単一製品」ではなく、**金融業務向けのテンプレート群**と、それを動かす**実行面**の組み合わせである。実行面としては、Claude Chat、Claude Cowork、Claude Code、Claude for Microsoft 365、Claude Platform API、Claude Managed Agents が明示されている。金融機関はこの中から、対話 UI、デスクトップ実務、開発チーム向け CLI、Office アドイン、API 組み込み、長時間のマネージド実行を使い分ける構成が想定されている。[11]

目的は、金融の反復的・時間集約的なワークフローを、既存のデータ・アプリ・承認フローに接続したまま短期間に AI 化することである。Anthropic は、テンプレートを「skills・connectors・subagents」を束ねた **reference architecture** として定義しており、各社は自社のモデル規約、リスク方針、承認フローに合わせて調整できると説明している。つまり、販売しているのは完成済み SaaS というより、**金融業務向けの標準化された出発点**である。[12]

提供形態は次のとおりである。

第一に、**Claude Cowork** または **Claude Code** のプラグインとして、アナリストのローカルファイルとデスクトップアプリの横で動かす。

第二に、**Claude Managed Agents** の **cookbook** として、Claude Platform 上で長時間・定期実行・バッチ処理に近い運用をする。

第三に、**Microsoft 365** アドインとして、Excel、PowerPoint、Word、Outlook 内で上下流の文書作成をつなぐ。[13]

価格情報については、**エージェント単体の価格は未公開**である。発表ページは「Cowork または Claude Code の all paid plans で利用可能」「Managed Agents は Claude Platform の public beta でプログラマティック利用可能」と述べるにとどまる。一方で、一般的な Claude 公表価格としては、Pro が年払い換算で月 17 ドル、月払い 20 ドル、Max が月 100 ドルから、API の Claude Opus 4.7 が入力 100 万トークン 5 ドル・出力 100 万トークン 25 ドルで示されている。したがって、今回の**金融テンプレート自体の値札はなく、課金は既存プランまたは API 従量に吸収される構造**と読むのが妥当である。[14]

## 各エージェント十種

下表は、Anthropic 公式ニュース、金融向け実装ガイド、公式 GitHub リポジトリを突き合わせ、**公式に公開された 10 エージェントの役割**を整理したものである。想定ユーザー欄は、公開ユースケースからの**高信頼な実務推定**であり、明示情報が乏しい箇所はその旨を明記した。[12]

エージェント名	公式機能要約	主なユースケース	想定ユーザー	実装・補足
Pitch builder	ターゲットリスト作成、コンプス実行、顧客会議向けピッチブック下書き	M&A 提案、資金調達提案、営業資料作成	投資銀行アナリスト、カバレッジバンカー、IR/アドバイザリー担当	プラグイン版では Excel でコンプス、PowerPoint でデッキ、Outlook でカバーノートまで連携例が示される。GitHub では Pitch Agent として提供。 <a href="#">[15]</a>
Meeting preparer	顧客・カウンターパーティーの事前ブリー	面談準備、経営会議準備、提案前情報整理	RM、カバレッジチーム、投資銀行担当者	GitHub では Meeting Prep Agent。Office 横断の文脈保持と相性がよい。 <a href="#">[16]</a>

エージェント名	公式機能要約	主なユースケース	想定ユーザー	実装・補足
Earnings reviewer	フ作成 決算説明会トランスクリプトや開示を読み、モデル更新、投資仮説関連変更を抽出	決算レビュー、クイックコメント、モデル更新補助	株式調査アナリスト、クレジットアナリスト、PM 補佐	公式ガイドでは「earnings transcript 要約や委員会提出前の仮説ストレステスト」が Claude Chat の例として挙げられている。[17]
Model builder	開示資料、データフィ	DCF、LBO、3表連動、バリュエーション更新	投資銀行アナリスト、PE アソシエイト、株式	GitHub では Model Builder。Excel アドイン文脈では「filings and data feeds からモデル構築」「sensitivity 分析」まで説明。[18]

ページ 名	公式 機能 要約	主なユー スケース	想定ユー ザー	実装・補足
Market researcher	ード 、ア ナリ スト 入力 から 財務 モデ ルを 作成 ・維 持  セク ター ・発 行体 動向 を追 跡し 、ニ ュー ス・ 開示 ・ブ ロー カー	セクター アップデ ート、ア イデア生 成、クレ ジット監 視	株式/クレ ジット調 査、リス ク管理、 投資委員 会スタッ フ	GitHub では Market Researcher。ニ ューズ、filings、broker research の 統合が明示される。[19]

エージェン ト名	公式 機能 要約	主なユー スケース	想定ユー ザー	実装・補足
Valuation reviewer	調査 を統 合、 信用 ・リ スク レビ ユー 向け 論点 抽出  コン パラ ブル 、評 価手 法、 社内 レビ ユー 基準 に照 らし て評 価を 検証	PE/未上場 評価、LP 報告前レ ビュー、 バリュエ ーション 統制	ファンド 管理、評 価委員会 支援、内 部統制担 当	GitHub では Valuation Reviewer。 リポジトリ説明では GP package を 読み、LP reporting をステージング するとされる。[19]

エージェント名	公式機能要約	主なユースケース	想定ユーザー	実装・補足
General ledger reconciler	総勘定元帳照合と、帳簿記録に対する NAV 計算の実行	GL 照合、NAV 照合、差異分析	経理、ファンド会計、コントローラ一部門	GitHub では GL Reconciler。発表の中では最もバックオフィス色が強い代表例。[19]
Month-end closer	締めチェックリスト実行、仕訳準備、締めレポート生成	月次締め、期末チェック、変動要因コメント	経理、財務、管理会計	Managed Agents の説明では multi-hour close をまたぐ長時間実行の例が示される。[20]

エージェンツ名	公式機能要約	主なユースケース	想定ユーザー	実装・補足
Statement auditor	財務諸表の整合性・完全性・監査準備性をレビュー	配布前レビュー、LP statement 点検、内部監査支援	財務報告、内部監査、ファンド管理	GitHub では Statement Auditor。公式 PDF でも consistency/completeness/audit-readiness が明示。[12]
KYC screener	取引開始書類を読み、ソース文書をレビューし、コンプライア	新規顧客オンボーディング、CDD/KYC 書類点検、例外整理	コンプライアンス、AML/KYC オペレーション、法人営業支援	発表では entity file assembly と escalation packaging まで含む。FSA 論点上、この種の顧客影響業務は human-in-the-loop が特に重要。[21]

エージェント名	公式機能要約	主なユースケース	想定ユーザー	実装・補足
	SNS 審査 用の エス カレ ーシ ョン をパ ッケ ージ 化			

## 技術仕様

今回の公開情報で確認できる技術仕様は、「どのモデルを使うか」よりも、**どの実行面でどうデータを扱うかに重点が置かれている**。公式ニュースでは、これらの更新が **Claude Opus 4.7 と組み合わせると最適**と説明され、Opus 4.7 ニュースページでは、同モデルが Claude 製品群、Claude API、Amazon Bedrock、Google Vertex AI、Microsoft Foundry で利用可能であるとされる。ただし、**各金融エージェントが特定のモデル ID に固定されているかどうかは未公開**である。したがって、公開情報としては「推奨モデルは Opus 4.7、ただしテンプレート自体は reference architecture」である。[22]

エージェント・テンプレートの構成要素は、Anthropic 公式により **skills、connectors、subagents** の三層として定義されている。skills は作業手順やドメイン知識、connectors はデータアクセス制御、subagents は比較会社選定や方法論チェックのような副タスクを担当する追加モデル群である。GitHub リポジトリでは、同一ソースから Cowork プラグインにも Managed Agent テンプレートにも展

開できる構成が明示されており、プラグイン側と Managed Agents 側で同じ **system prompt** と **skills** を共有する設計になっている。[19]

データ取扱い・プライバシー・セキュリティでは、一枚岩ではない。Claude API の Messages API は、組織が ZDR 契約を結んでいる場合、レスポンス返却後にデータを保存しない **Zero Data Retention** の対象だが、Claude Managed Agents は状態保持型リソースであり、**自動削除はない**。さらに Files API や Skills など、一部機能は ZDR 非対応で標準保持ポリシーが適用される。Anthropic は同時に、「保持データは明示的許可なく学習に使わない」とも述べている。金融機関にとっては、**同じ Claude でも機能ごとに保持モデルが異なる**ため、PoC 段階から機能選定とデータ分類を紐づける必要がある。[23]

セキュリティ制御としては、発表ページで **per-tool permissions**、**managed credential vaults**、**full audit log** が明示されている。Managed Agents ドキュメントでも、agent、environment、session、events の概念、サーバー側保持されるイベント履歴、クラウドコンテナ、ネットワークアクセス規則が説明されている。また、Enterprise plan では SSO、ロールベース権限、管理機能、監査ログ、SCIM が掲げられている。要するに、セキュリティ実装の中心は**モデルそのものの安全性よりも、実行権限、資格情報、監査可能性**である。[24]

クラウド/オンプレ対応については、公開情報上、クラウド中心である。Claude Platform API は Anthropic API に加え、Bedrock、Vertex AI、Microsoft Foundry でもモデル利用が可能だが、Managed Agents 自体は Anthropic 管理インフラ上の「managed infrastructure」で動く。Microsoft Foundry 統合も、プレビューでは**モデル実行は Anthropic** のインフラ上とされる。よって、**ネイティブなオンプレミス提供は今回の公開情報では確認できない**。その代わりに、データレジデンシー機能として inference\_geo により **global** または **us** を選択できる。[25]

API・統合方法は複数ある。Claude Platform の Messages API で独自ループを組む方法、Managed Agents で長時間タスクを実行する方法、Claude Code/Cowork プラグインとして配布する方法、Microsoft 365 アドインで Office 内に組み込む方法である。Managed Agents は SSE によるイベントストリーミング、ファイル操作、

bash、web search/fetch、MCP servers を標準ツールとして持つ。Office 面では Excel、PowerPoint、Word が一般提供、Outlook は近日提供で、Excel で始めた作業文脈を PowerPoint や Word に持ち越せる。[26]

接続先データは、既存パートナー群と新規追加群に分かれる。既存・周辺としては、FactSet[27]、`["entity": "organization", "S&P Global", "financial information company"]`、MSCI、PitchBook、Morningstar、LSEG、Daloopa などが例示され、新規には `entity ["organization", "Dun & Bradstreet", "business data company"]`、Fiscal AI、Financial Modeling Prep、Guidepoint、IBISWorld、SS&C IntraLinks、Third Bridge、Verisk のコネクタ、さらに Moody's[28] の MCP アプリが追加された。コネクタは「governed, real-time access」、MCP アプリはプロバイダー独自のツール UI を Claude 内に埋め込むものと位置づけられている。[29]

## 規制・コンプライアンスとリスク評価

### 規制・コンプライアンス上の留意点

米国の銀行監督実務では、2026 年 4 月の改訂ガイダンス SR 26-2 が、モデル妥当性確認、継続モニタリング、役割分担、モデル台帳、文書化、第三者モデル監督を中核原則として再整理した。ただし同文書は、**generative AI and agentic AI models are not within the scope** と明言している。他方で、スコープ外だから自由という意味ではなく、既存のリスク管理・ガバナンス慣行を使って、対象外の新技術にも適切な統制を決めよという立て付けである。したがって、Anthropic の金融エージェントは、米国銀行実務では「未規制の新領域」ではなく、**既存のモデルリスク管理原則を拡張適用して扱う対象**とみるべきである。[30]

同時に、OCC・FRB・FDIC の第三者リスク管理ガイダンスは、第三者ライフサイクルを計画、デューデリジェンス、契約、継続モニタリング、終了で管理することを求めている。Anthropic の今回の提供は、モデル、マネージド実行、外部データコネクタ、MCP アプリ、Office アドインを束ねた多層ベンダー構成であるため、契約単位ではなく**実サービス単位の責任分界**を確認しないと、障害・データ漏えい・誤出力の責任帰属が曖昧になりやすい。[31]

EU では、まず AI Act が重要である。AI Act は、**自然人の credit score または creditworthiness の評価**に使う AI を high-risk に位置づけている。また、AI と直接やり取りする自然人には、それが AI である旨の通知義務が課される。したがって、今回の 10 エージェントのうち、**KYC screener、信用関連レビュー、顧客向け利用に転用された Model builder/Valuation reviewer**などは、利用文脈によっては AI Act 上の高リスク義務や透明性義務の検討対象になる。[\[32\]](#)

EU の個人データ保護では GDPR が重い。特に、**Article 22** は、法的効果または同様に重大な影響を与える **solely automated decision-making** に対する権利を定め、情報提供面でも「logic involved」「significance and envisaged consequences」の説明が要求される。さらに、Article 30 は処理記録、Article 33-34 は 72 時間以内の漏えい通知と本人通知、Article 35 は高リスク処理の DPIA を求める。KYC や信用評価、オンボーディング審査に AI を使う場合、単に精度が高いかではなく、**記録・説明・異議申立て可能性をどう担保するかが論点**になる。[\[33\]](#)

EU の金融機関側統制としては DORA も直接関係する。DORA は、金融機関に対して ICT リスク管理、変更管理、異常検知、学習・改善、重大 ICT インシデント分類・報告、第三者 ICT 契約管理を要求する。特に、重要機能を支える ICT サービス契約では、**第三国に所在する事業者、再委託チェーン、データ回収可能性、法執行可能性**を考慮する必要がある。Anthropic の Managed Agents や各種コネクタを本番業務に組み込む場合、DORA 観点では**ベンダー監督と障害時復旧計画**が必須になる。[\[34\]](#)

日本では、Financial Services Agency[\[6\]](#)の 2025 年 AI Discussion Paper が最も実務的な示唆を与える。同文書は、金融機関に対して過度に萎縮せず AI 活用を進めるよう促す一方、**顧客に重要影響を与える業務では human in the loop が必要**であり、生成 AI の **hallucination、説明困難性、バイアス、継続モニタリング、インシデント対応**が主要課題であると整理する。また、AI ガバナンスは固定ルールではなく、環境変化に応じて見直す **agile governance** が望ましいとしている。日本拠点の銀行・証券・保険が本件を導入するなら、この整理と極めて整合的である。[\[35\]](#)

## リスク評価

最初のリスクは**誤情報・幻覚**である。Anthropic は Opus 4.7 が金融タスクで強く、Vals AI の Finance Agent benchmark で 64.37%と主張するが、学術側の Finance Agent Benchmark では、当時の最良モデルでも **46.8% accuracy**にとどまり、FinGAIA でも最良エージェントは **48.9%**で専門家より 35 ポイント以上低いと報告されている。つまり、金融エージェントはすでに有用だが、**無監督で最終判断まで任せられる水準にあるとは言にくい**。Anthropic の製品説明が一貫して human-in-the-loop を前提にしているのは合理的である。[36]

第二のリスクは**バイアスと説明責任**である。FSA は、AI モデルの推論バイアスと説明可能性の難しさを明示しており、特に顧客影響業務ではリリース管理と継続モニタリングに反映すべきだと述べる。EU でも、信用力評価のような人の機会を左右する文脈は高リスク扱いで、GDPR 22 条は純粹自動判断に権利制約を課す。ゆえに、**KYC・信用・保険引受・バリュエーション承認に近い箇所ほど、出力説明、根拠リンク、差戻しフロー、二次審査が必要になる**。[37]

第三のリスクは**運用リスク**である。Managed Agents は長時間実行、状態保持、サーバー保持イベント履歴、クラウドコンテナ、外部ツール呼び出しを前提とする。これは便利だが、失敗モードも増やす。具体的には、権限過大、資格情報漏えい、環境差分、途中停止、ツール依存障害、再実行時の再現性不足である。米国改訂 MRM が要求するモデル台帳、文書化、検証、監視、**effective challenge** は、こうした「**モデル外**」の**実行リスク**を包摂するよう再解釈する必要がある。[38]

第四のリスクは**サイバー・データ保護リスク**である。コネクタが増えるほど攻撃面は広がる。Anthropic は Opus 4.7 で悪意ある prompt injection への耐性改善を述べているが、金融機関側では、第三者コネクタ、MCP サーバー、Office ファイル、共有ドライブ、メールまで含めた**境界防御と権限制御**が不可欠である。DORA は ICT 変更管理、検知、冗長性、脆弱性学習を義務づけ、FTC Safeguards Rule は顧客情報保護プログラムとサービス提供者監督を求める。したがって、コネクタの利便性は高いが、**接続先ごとの認可スコープ設計が導入成否を左右する**。[39]

## 導入上の実務的示唆

Anthropic の公式ガイドは、導入を **foundation → pilot → scale** の三段階で進める前提を置いている。これを踏まえると、金融機関の初期 PoC は、人がすでに作っている**成果物の起案補助**から始めるのが最も現実的である。具体的には、Pitch builder、Meeting preparer、Earnings reviewer、Statement auditor、GL reconciler のような、最終承認前にレビューを挟みやすい業務が向いている。逆に、KYC や信用判断のように顧客影響が直接かつ大きい業務は、PoC 初期では**最終判定ではなく、例外抽出・不足書類抽出・下書き生成**に限定するのが安全である。これは Anthropic の human-in-the-loop 設計、FSA の整理、EU/US の説明責任枠組みに整合する。[40]

PoC の評価設計は、単なる「便利かどうか」では不十分である。最低限、**精度、完全性、再現性、根拠提示率、差戻し率、工数削減率、レビュー時間短縮率、誤検知/見逃し率**をベースライン比較すべきである。金融文書タスクでは、学術ベンチマークでも現行エージェントの限界が残るため、実務導入前に**自社データ・自社テンプレート・自社例外パターンでの閉域評価**が必須となる。これは推奨というより、規制整合性のための前提条件に近い。[41]

ガバナンス設計では、モデルリスク委員会とは別に、**AI 利用審査の軽量ゲート**を設けるのが実務的である。そこでは、用途分類、データ分類、顧客影響度、接続先、権限範囲、レビュー義務、監査ログ保存先、停止条件を決める。FSA がいう agile governance、米国 MRM の roles/responsibilities ・ inventory ・ documentation、OCC の third-party lifecycle を合わせて読むと、最も重要なのは「モデル選定」よりも、**どの業務をどの権限でどの承認フローに接続するか**である。[42]

監査ログについては、Anthropic 側の **Claude Console full audit log** や Enterprise audit logs だけに依存しないほうがよい。金融機関の実務では、少なくとも**プロンプト内の業務 ID、入力文書バージョン、使用コネクタ、ツール呼び出し、承認者、差戻し理由、送付先**を自社側でも保存し、監査証跡を自社 SIEM や業務ログ基盤に集約する必要がある。Managed Agents はイベント履歴を保持するが、ZDR 外で

ある以上、「あるから安心」ではなく、どこに、どれだけ、誰が見られる形で残るかを契約と運用で固定すべきである。[43]

運用体制は、少人数でも役割分離が必要である。理想形は、**業務オーナー、コンプライアンス/法務、モデルリスクまたは検証担当、プラットフォーム/ID 管理担当、情報セキュリティ、監査**の横断チームである。特に、外部データコネクタを使う場合は、データ利用許諾・再開示制限・ライセンス境界を確認できる体制が欠かせない。Anthropic の新コネクタ群は魅力的だが、金融情報ベンダーの利用契約条件はしばしば細かく、**技術接続可能=契約上自由に使える**ではない。[44]

コスト見積りは、実務上、次の五層に分けると整理しやすい。**席課金、API トークン、データコネクタ/ベンダーライセンス、導入・検証、運用・監査**である。

Anthropic 公式公開価格から見えるのは、Pro/Max などの席課金と、Opus 4.7 の API 従量料金、さらに prompt caching による最大 90%節約、batch processing による 50%節約、Claude Code の参考的企業利用コストである。したがって、見積りは「月額ライセンス×ユーザー数」で終わらず、**長時間セッションのトークン消費、文書サイズ、再試行率、Office 生成物の往復回数、データベンダー接続料**を掛け合わせる必要がある。[45]

以下は、上記の製品特性と規制論点を前提にした、**実務上妥当な導入フロー**の一例である。[46]

flowchart TD

- A[ユースケース選定] --> B[データ分類と権限設計]
- B --> C[PoC 評価セット作成]
- C --> D[閉域 PoC]
- D --> E[人手レビュー込みのパイロット]
- E --> F[監査ログと KPI 定着]
- F --> G[Managed Agents や定期処理へ拡張]
- D --> H[差戻し]
- E --> H
- H --> C

このフローで重要なのは、PoC と本番の間に「人手レビュー込みのパイロット」を必ず置くことである。Anthropic 自身も、テンプレートがアウトプットを直接確定するのではなく、**qualified professional** のレビュー前提であることを GitHub で明記している。したがって、本件の導入成功条件は、高度な完全自律性ではなく、レビューコストが下がるように AI を組み込めるかにある。[47]

## 競合比較

Anthropic の強みは、金融向けに明示された 10 の参照エージェント、Office 実務との接続、金融データベンダーへのコネクタ群、そしてプラグインと Managed Agents を同一ソースで往復できる構造にある。一方、競合は大きく二群に分かれる。第一は、OpenAI[48]、Microsoft[49]、Google Cloud[50]のような汎用エンタープライズ・エージェント基盤。第二は、Bloomberg[51]、Hebbia[52]、Rogo[53]、AlphaSense[54]のような金融ドメイン特化アプリケーション層である。[55]

ベンダー/製品	主な立ち位置	Anthropic との差分	Anthropic に対する相対評価	根拠
Anthropic / 金融業務向け 10 エージェント	金融特化の参照エージェント + Office 統合 + Managed Agents	テンプレートが最初から金融ワークフロー名で提供され、Cowork/Code/Managed Agents にまたがる	金融業務テンプレートの具体性が強み。個別価格やオプション選択肢は未公開。	[56]
OpenAI / Frontier	汎用エンタープライズ・エージェント基盤	systems of record 連携と enterprise-grade security を前面に出すが、今回確認できた範囲では Anthropic ほど金融テンプレートが具体化されていない	横断的な企業基盤として有力。ただし、本件比較では金融ユースケースの即戦力性は Anthropic が上。	[57]
Microsoft / Copilot Studio +	Microsoft 365 ネイティブ	自然言語/GUI でエージェントを作り、Microsoft 365	M365 配布力とローコードが強い。	[58]

ベンダー/製品	主な立ち位置	Anthropic との差分	Anthropic に対する相対評価	根拠
Finance agents	イブのエージェント構築・財務業務支援	Copilot に配布可能。 Finance agents は Excel などと既存財務システムの接続を訴求	Anthropic は逆に、金融データ接続と専用テンプレートの具体性で差別化。	
Bloomberg / ASKB	Bloomberg 端末・データ内の投資調査エージェント	Bloomberg 独自データ、ニュース、研究、分析を並列 AI エージェントで活用。 pre/post earnings など研究ワークフローが強い	データ閉域の深さは強力。ただし、KYC・GL・月次締めなどバックオフィス業務の広さでは Anthropic が広い。	[59]
Google Cloud / Gemini Enterprise Agent Platform	クラウド基盤+エージェント構築+FSI セキュリティ/ソブリン対応	build/scale/govern/optimize agents を訴求し、金融向けにコンプライアンス・ソブリン AI・MRM ガイダンスを前面化	クラウド統制・主権対応に強み。 Anthropic は金融ワークフローの標準テンプレートで優位。	[60]
Hebbia / Matrix	金融特化の高ステークス分析プラットフォーム	高ステークス意思決定向け、投資家・銀行・アドバイザー向けに特化。透明性・自動ワークフローを強調	金融専用アプリ層として競合。 Anthropic はモデル/基盤/Office/connector を横断できる点が相対優位。	[61]
Rogo / Felix	銀行・私募	deck、spreadsheet、report	投資銀行現場への	[62]

ベンダー/製品	主な立ち位置	Anthropic との差分	Anthropic に対する相対評価	根拠
	・公開市場向けの実務特化 AI	の三系統に強く、銀行実務 UX を前面に出す	<b>特化</b> が魅力。 Anthropic は研究 ・フロントに加え、 決算・照合・ KYC まで射程が広い。	
AlphaSense / Deep Research	市場インテリジェンス ・リサーチ 検索基盤	millions of documents、AI search、Expert Insights、Deep Research を訴求	<b>探索・情報発見</b> に は強いが、 Anthropic のような GL/KYC/月次締めなど 作業実行型エージェントとは 性格が異なる。	[63]

総合すると、Anthropic の今回の発表は「最強モデル競争」というより、**金融向け業務 OS の入口を押さえる競争**に近い。汎用基盤勢との比較では、Anthropic は金融テンプレートとデータ接続で差をつけ、金融特化アプリ勢との比較では、Claude Platform・Managed Agents・Office 統合の広さで対抗している、という整理が妥当である。[64]

## 参考ソース一覧

### 優先ソース

- Yahoo!ファイナンス掲載のフィスコ記事「アンソロピック、金融機関向け最新 AI エージェント投入」：日本語の外部報道ソースとして参照。発表の同日報道で、銀行など金融サービス企業向け AI エージェント投入の事実確認に使用。[65]

- Anthropic 公式ブログ「Deploying Claude across financial services」：金融向け導入ガイド、製品マトリクス、10 テンプレート、導入フェーズの位置づけに使用。[66]

## Anthropic 公式・一次情報

- Anthropic 公式ニュース「Agents for financial services」：発表の中心資料。10 エージェント、提供形態、Microsoft 365 統合、新規コネクタ、MCP アプリの確認に使用。[67]
- Anthropic 公式 GitHub「financial-services」：実装単位、プラグイン構成、agent slug、Managed Agent deploy の説明に使用。[68]
- Claude Managed Agents docs、API and data retention、data residency、pricing、Claude for Enterprise：構成、保持ポリシー、監査性、料金の考え方に使用。[69]
- Claude Opus 4.7 announcement and model pages：推奨モデル、API 価格、ベンチマーク、prompt-injection 耐性改善に使用。[70]

## 規制当局・公式資料

- US banking agencies revised model risk guidance SR 26-2：モデル妥当性確認、監視、inventory、documentation、vendor oversight の整理。[71]
- OCC Bulletin 2023-17 Third-Party Relationships: Risk Management：第三者ライフサイクル管理。[72]
- EU AI Act、GDPR、DORA：高リスク AI、透明性、記録保存、漏えい通知、DPIA、ICT 第三者リスクを確認。[73]
- 日本 FSA「AI Discussion Paper Version 1.0」：human-in-the-loop、hallucination、agile governance、AI モデル管理の論点。[74]
- FTC Safeguards Rule：金融情報保護とサービスプロバイダー監督。[75]

## 主要メディア・市場文脈

- Reuters「Anthropic deepens finance push with 10 new AI agents for banks, insurers」：市場文脈、金融業界での位置づけ補足。[76]

- Wall Street Journal / Barron's / Axios / Business Insider : 競争環境と市場文脈の補助確認。[77]

## 学術・ベンチマーク

- Finance Agent Benchmark (arXiv 2025) : 金融エージェントの現状性能限界の確認。[78]
- FinGAIA (arXiv 2025) : 金融実務エージェントの多段・多ツール性能差の確認。[79]
- Deficiency of Large Language Models in Finance: An Empirical Examination of Hallucination (arXiv 2023) : 金融分野における hallucination 問題の補強。[80]
- Agentic AI Systems Applied to Tasks in Financial Services (arXiv 2025) : 金融分野の human-in-the-loop agentic workflow 研究の補足。[81]

## 未公開情報と限界

- 各エージェントがどのモデル ID に固定されるのかは公開情報からは確認できず、Opus 4.7 は「pair best with」として推奨されるにとどまる。[82]
- エージェントごとの個別価格、SLA、導入最低契約条件は未公開である。発表時点で確認できるのは、paid plans 利用可と Managed Agents public beta のみ。[83]
- オンプレミス提供の有無は、今回確認した公開資料では明示されていない。公開情報は一貫して Anthropic 管理またはクラウド統合型である。[84]
- ユーザーが言及した 2 件の URL 文字列自体は会話表示上に現れていなかったため、本報告では同一タイトル・同一内容の公開ページを優先ソースとして参照した。

---

[1] [2] [3] [5] [8] [9] [12] [13] [14] [15] [16] [17] [18] [19] [20] [21] [22] [24] [29] [36] [43] [44] [51] [52] [53] [56] [64] [67] [82] [83] <https://www.anthropic.com/news/finance-agents>

<https://www.anthropic.com/news/finance-agents>

[4] [62] <https://rogo.ai/felix>

<https://rogo.ai/felix>

[6] [7] [30] [54] [71]

<https://www.federalreserve.gov/supervisionreg/srletters/SR2602.pdf>

<https://www.federalreserve.gov/supervisionreg/srletters/SR2602.pdf>

[10] [11] [40] [46] [50] [66] <https://claude.com/blog/deploying-claude-across-financial-services>

<https://claude.com/blog/deploying-claude-across-financial-services>

[23] <https://platform.claude.com/docs/en/manage-claude/api-and-data-retention>

<https://platform.claude.com/docs/en/manage-claude/api-and-data-retention>

[25] [https://www-](https://www-cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf)

[cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf](https://www-cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf)

[https://www-](https://www-cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf)

[cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf](https://www-cdn.anthropic.com/files/4zrzovbb/website/34783bca828d7fa331f515ced26f1c9232151b2c.pdf)

[26] <https://docs.anthropic.com/>

<https://docs.anthropic.com/>

[27] [34] <https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=CELEX%3A32022R2554>

<https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=CELEX%3A32022R2554>

[28] [39] <https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-7>

<https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-7>

[31] [72] <https://www.occ.treas.gov/news-issuances/bulletins/2023/bulletin-2023-17.html>

<https://www.occ.treas.gov/news-issuances/bulletins/2023/bulletin-2023-17.html>

[32] [48] [73] [https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=OJ%3AL\\_202401689](https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=OJ%3AL_202401689)

[https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=OJ%3AL\\_202401689](https://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=OJ%3AL_202401689)

[33] <https://eur-lex.europa.eu/eli/reg/2016/679/oj/eng>  
<https://eur-lex.europa.eu/eli/reg/2016/679/oj/eng>

[35] [37] [42] [74] [https://www.fsa.go.jp/en/news/2025/20250304/aidp\\_en.pdf](https://www.fsa.go.jp/en/news/2025/20250304/aidp_en.pdf)  
[https://www.fsa.go.jp/en/news/2025/20250304/aidp\\_en.pdf](https://www.fsa.go.jp/en/news/2025/20250304/aidp_en.pdf)

[38] [69] <https://platform.claude.com/docs/en/managed-agents/overview>  
<https://platform.claude.com/docs/en/managed-agents/overview>

[41] [49] [78] <https://arxiv.org/abs/2508.00828>  
<https://arxiv.org/abs/2508.00828>

[45] <https://www.anthropic.com/pricing>  
<https://www.anthropic.com/pricing>

[47] [68] <https://github.com/anthropics/financial-services>  
<https://github.com/anthropics/financial-services>

[55] [57] <https://openai.com/business/frontier/>  
<https://openai.com/business/frontier/>

[58] <https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365-copilot/microsoft-copilot-studio>  
<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365-copilot/microsoft-copilot-studio>

[59] <https://professional.bloomberg.com/products/bloomberg-terminal/ai/>  
<https://professional.bloomberg.com/products/bloomberg-terminal/ai/>

[60] <https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/introducing-gemini-enterprise-agent-platform>  
<https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/introducing-gemini-enterprise-agent-platform>

[61] <https://www.hebbia.com/>  
<https://www.hebbia.com/>

[63] <https://www.alpha-sense.com/>  
<https://www.alpha-sense.com/>

[65]

<https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/b2d850e7060ec13a9860366a823ddff06f14f2df>

<https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/b2d850e7060ec13a9860366a823ddff06f14f2df>

[70] <https://www.anthropic.com/claude/opus>

<https://www.anthropic.com/claude/opus>

[75] <https://www.ftc.gov/legal-library/browse/rules/safeguards-rule>

<https://www.ftc.gov/legal-library/browse/rules/safeguards-rule>

[76] <https://www.reuters.com/business/finance/anthropic-deepens-finance-push-with-10-new-ai-agents-banks-insurers-2026-05-05/>

<https://www.reuters.com/business/finance/anthropic-deepens-finance-push-with-10-new-ai-agents-banks-insurers-2026-05-05/>

[77] <https://www.wsj.com/tech/ai/anthropic-releases-new-ai-agents-for-financial-services-firms-e2829b37>

<https://www.wsj.com/tech/ai/anthropic-releases-new-ai-agents-for-financial-services-firms-e2829b37>

[79] <https://arxiv.org/abs/2507.17186>

<https://arxiv.org/abs/2507.17186>

[80] <https://arxiv.org/abs/2311.15548>

<https://arxiv.org/abs/2311.15548>

[81] <https://arxiv.org/abs/2502.05439>

<https://arxiv.org/abs/2502.05439>

[84] <https://platform.claude.com/docs/en/build-with-claude/claude-in-microsoft-foundry>

<https://platform.claude.com/docs/en/build-with-claude/claude-in-microsoft-foundry>